

3. 2から見た中心経営体の確保状況

	担い手は十分確保されている
○	担い手はいるが充分ではない
	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	担い手、集落営農への集積は進んでいる。
担い手の分散錯圖を解消する	実施していない	好条件圃場は集約化されているが、条件不利地は分散している。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施している	他地区から参入している法人への集積を行っている。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策としてソバ等の転作作物の作付けを行っている。
その他[作業の集約化]	実施している	集落営農組織や他地区から参入している法人への集約化を行っている。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	実施しているが、実績は少ない。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	実施していない	好条件圃場は集約化されているが、条件不利地は分散している。
その他[集落営農組織の法人化]	検討中	集落営農組織が2件あるが、法人化については検討中。

6. 今後の地域農業の在り方

課題	<p>水稻の作付が盛んな地区であるが、市内でも有数の豪雪地帯であり収量は低い。 担い手については、現在は不十分ながらも足りている状況であるが今後5年後10年後を見据えると耕作者の高齢化等が進み、耕作者が不足することが確実となる。</p>
対策	<p>今後は水稻に固執した経営から転換し、適期作業ができる作物の生産も考える必要がある。 担い手不足については、集落営農組織の活動範囲を地区全体に広め、地域全体の集落営農化を計画する。農地の権利取得等のため、集落営農組織の法人化も視野に入れ農地中間管理機構を活用できる体制を構築する必要がある。</p>

3. 2から見た中心経営体の確保状況

	担い手は十分確保されている
○	担い手はあるが充分ではない
	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	大規模経営体への集積が進んでいる。
担い手の分散錯圖を解消する	実施していない	分散している圃場もあるが、それぞれが団地化されている。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施している	新規就農者への集積を積極的に行っている。他地区からの参入者は少数。
耕作放棄地の発生防止	実施している	山間部の農地については、原野等への地目変更等対策が必要。
その他[担い手の確保]	実施している	実施しているが、充分ではない。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	貸し付ける場合は農地中間管理機構を活用する。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	実施していない	集約化を行う場合は農地中間管理権の権利移転を行う。
その他[条件不利農地の集積]	実施している	転作作物の作付けが主な担い手による集積が進んでいる。

6. 今後の地域農業の在り方

<p>課題 担い手の高齢化が進み、5年後10年後は担い手不足となる可能性がある。 条件不利農地が多数存在するため、耕作者の減少による耕作放棄地の増加が懸念される。</p> <p>対策 担い手の確保、育成が必要となる。法人等の大規模経営体が多数あるが、現在の大規模経営体が地区全体の農地を集積することは不可能と考える。 今後、新たな法人、集落営農組織を設立し集落営農化を進めるほか、他地区からの参入者、新規就農者の確保育成が必要となる。 条件不利農地については、事業等の活用により耕作条件を改善する取り組みが必要となる。</p>

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/>	担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/>	担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/>	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	担い手の集積は農地中間管理事業を活用する。
担い手の分散錯圃を解消する	検討中	それほど分散していないが、集約化したい圃場はあるため、今後話し合いが必要。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	検討中	担い手不足が懸念されるため今後話し合いが必要。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地が発生しないよう転作作物を作付け。
その他[作業の集約化]	検討中	法人経営、集落営農等の話し合いが必要。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	計画有り	貸し付ける場合は農地中間管理機構を活用する。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	計画有り	集約化を行う場合は農地中間管理権の権利移転を行う。
その他[地域での計画的な農地集積]	検討中	プランの話し合いの中で、機構の活用について今後更に話し合う必要がある。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 10年後には担い手の高齢化が進み、後継者不足等から耕作者不足が問題となる恐れがある。

対策 他地区からの参入者、今後神代地区で中心的経営体となるであろう耕作者の確保、育成が必要となる。
地区内の担い手が不足しているところは、法人経営への転換や、機械の共同利用等を考える。

	担い手は十分確保されている
○	担い手はいるが充分ではない
	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	停滞	現状を維持することで精一杯。
担い手の分散錯圖を解消する	計画無し	他地区からの参入者との話し合い等必要。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	推進しない	他地区からの参入者との話し合い等必要。
耕作放棄地の発生防止	実施している	防除等徹底している。
その他[担い手確保、水稲単一栽培からの経営転換]	停滞	話し合い必要だが、担い手の高齢化等考えると現実味がない。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	貸し付ける場合は農地中間管理機構を活用する。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	市街化区域は相対の契約が多数。
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	実施していない	現状維持。
その他[他地区からの参入者と連携]	計画有り	共同利用施設(農道、用排水路等)の維持管理等検討必要。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 市街化区域のため、農家の減少が問題となっている。
 今後5年、10年後は高齢化による耕作者不足や不作付地の増加が問題となる。
 他地区からの参入者の農地管理が行き届いていないため、用排水路や農道の管理が当地区の負担となっている。

対策 新規就農規模者の掘り起こしを行う。他地区からの参入者への用排水路、農道等の管理について呼びかける。
 街中の小区画圃場での水稲栽培は大型機械での作業が困難であること等から、園芸作物等の栽培に経営転換を図る。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/>	担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/>	担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/>	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	大規模経営体への集積が進んでいる。
担い手の分散錯圖を解消する	実施している	基盤整備済地区では進んでいるが、未整理地区は停滞している。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施している	他地区からの参入者が多数存在する。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策として大豆、ソバ、飼料作物等の作付けが多い。
その他[作業の集約化]	実施している	集落営農、個人の大規模経営体への集約を行っている。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	殆どの農地の出し手が農地中間管理機構を活用している。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	検討中	市外からの参入者が多数存在するため、検討中。
その他[条件不利農地の集積]	実施している	転作作物の作付けが主な担い手による集積が進んでいる。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 10年後には担い手の高齢化による耕作者不足が問題となる恐れがある。

対策 他地区からの参入者、今後白岩地区で中心的経営体となるであろう耕作者の確保、育成が必要となる。
山間地の条件不利農地は、耕作条件を改善する事業等を積極的に活用する。農地中間管理機構を活用し、地域の中心経営体や他地区からの参入希望者新規就農者への集積を進める。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/> 担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/> 担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/> 担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	基盤整備済地区は集積が進んでいるが、未整理地区は停滞している。
担い手の分散錯圖を解消する	実施している	基盤整備済地区は集約が進んでいるが、未整理地区は停滞している。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施している	他地区からの参入者は多数。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策として大豆等の作付けを行っている。
その他[作業の集約化、不整形圃場の耕作条件改善]	一部計画有り	基盤整備済地区は済んでいる。一部地区で基盤整備計画有り。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	基盤整備済地区は農地が流動的だが、未整理地区は停滞している。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	検討中	市外からの参入者が多数存在するため、検討中。
その他[地域での計画的な農地集積]	一部計画有り	一部基盤整備事業の計画があり、面的集積計画検討中。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 10年後には担い手の高齢化による耕作者不足が問題となる恐れがある。

対策 他地区からの参入者、今後雲沢地区で中心的経営体となるであろう耕作者の確保、育成が必要となる。不整形圃場が多数存在するため、耕作条件改善が必要となる。各種事業を活用し不整形圃場の解消が作業効率の向上、低コスト化に繋がる。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/> 担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/> 担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/> 担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	一部ではあるが実施している。
担い手の分散錯圖を解消する	計画有り	〃
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	検討中	希望者がいれば検討する。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地の発生防止対策として転作作物の作付け等行っている。
その他[耕作条件の改善]	検討中	

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	検討中	分散錯圖解消検討中
その他[地域でのまとまった農地集積]	検討中	

6. 今後の地域農業の在り方

<p>課題 耕作条件の改善が必要。 担い手は十分確保されているが、高齢化による耕作者不足が問題かする可能性が大きい。</p> <p>対策 農地中間管理機構を活用し、地域での集積を進める。地域集積協力金を活用して農道、用排水路を整備する。 他地区からの参入者、新規就農者への農地集積を進め、不作付地発生防止を図る。</p>
--

3. 2から見た中心経営体の確保状況

	担い手は十分確保されている
○	担い手はあるが充分ではない
	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	計画無し	担い手はあるが充分ではないため停滞している。
担い手の分散錯圖を解消する	計画無し	地形的に解消できない。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	計画無し	新規参入希望者がいない。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止のため、ソバの作付け等を行っている。
その他[地域に合った作物生産]	実施している	ソバの作付けが多数。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	実施しているが充分ではない。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	実施しているが、担い手の経営規模が限界に近い。
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	計画無し	地形的に解消できない。
その他[大規模経営体への農地集積]	計画無し	大規模経営体の経営規模が限界に近い。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 担い手不足、担い手の高齢化、不作付地の増加等課題は他地区と比較して多い。
 水稲生産に適さない圃場が多数存在する。

対策 他地区からの参入者を積極的に受け入れる。
 水稲生産に固執した経営から圃場に適した作物の作付へ転換する。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input checked="" type="radio"/>	担い手は十分確保されている
<input type="radio"/>	担い手はあるが充分ではない
<input type="radio"/>	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	大規模経営体が多数存在し、集積を進めている。
担い手の分散錯圖を解消する	計画なし	分散しているが、それぞれが団地化されているので現状維持。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施している	新規就農者や他地区からの参入者への集積を行っている。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地が発生しないように転作作物の作付けを行っている。
その他[作業の集約化]	計画有り	法人、集落営農、担い手への作業委託。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	貸し付ける場合は農地中間管理機構を活用する。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	〃
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	停滞	分散しているが、それぞれが団地化されているので現状維持。
その他[地域での計画的な農地集積]	計画有り	基盤整備計画地区については話し合いが行われている。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 10年後には担い手の高齢化による耕作者不足が問題となる恐れがある。

対策 他地区からの参入者、今後雲沢地区で中心的経営体となるであろう耕作者の確保、育成が必要となる。
不整形圃場が多数存在するため、耕作条件改善が必要となる。各種事業を活用し不整形圃場の解消が作業効率の向上、低コスト化に繋がる。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/> 担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/> 担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/> 担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	現在中心経営体集積率70%超え。
担い手の分散錯圖を解消する	計画有り	基盤整備地区の集約化計画有り。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	計画有り	地区内の法人と担い手で耕作していく。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策としてソバ等の転作作物の作付けを行っている。
その他[法人経営への協力体制]	計画有り	リタイアした農業者から協力を得られるよう話し合いが必要。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	済	
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	済	
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	計画有り	基盤整備地区の集約化計画有り。
その他[基盤整備地区外からの集積]	計画有り	1法人地区外からの集積計画有り。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 5年後10年後は法人構成員の高齢化が問題となりうる。

対策 地区内には若い世代の経営者が多数存在するので人材確保、育成を進める。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/>	担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/>	担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/>	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	済	
担い手の分散錯圖を解消する	済	
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	実施しない	既存の法人に集約化済み。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策としてソバ等の転作作物の作付けを行っている。
その他[法人経営への協力体制]	調整中	リタイアした農業者の農作業従事について検討中。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	済	
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	済	
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	集約済	
その他[経営規模の拡大]	検討中	他地区からの集積を検討中。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 労働力の確保。

対策 地域のリタイアした農業者を法人の従事者として受け入れる。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/>	担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/>	担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/>	担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	済	
担い手の分散錯圖を解消する	計画有り	面工事終了後集約予定。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	検討中	後継者候補はあるが、検討する。
耕作放棄地の発生防止	全農地耕作	
その他[個人経営から集落営農化]	検討中	担い手の半数が高齢であり、集落型の法人化を検討中。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	済	
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	済	
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	済	
その他[済]		

6. 今後の地域農業の在り方

課題 担い手の高齢化が5年後10年後の最重要課題となる。

対策 担い手4名の後継者は確保されているが、経営を個人経営から集落営農法人化する。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input checked="" type="radio"/> 担い手は十分確保されている
<input type="radio"/> 担い手はあるが充分ではない
<input type="radio"/> 担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	計画有り	基盤整備事業に係る面工事終了後、4法人と担い手数名に集積予定。
担い手の分散錯圖を解消する	計画有り	基盤整備事業に係る面工事終了後、集約予定。
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	推進しない	地域内の担い手、法人が地域農業を担う。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地発生防止対策として転作作物の作付けを行っている。
その他[法人経営への協力体制の構築]	計画有り	リタイアする農業者からの協力体制について検討必要。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	計画有り	4法人と担い手数名に集積予定。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	計画有り	4法人と担い手数名に集積予定。
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	計画有り	基盤整備面工事終了後、面的集積計画有り。
その他[地域内の全農地の集積]	計画有り	基盤整備面工事終了後、面的集積計画有り。

6. 今後の地域農業の在り方

課題 労働力の確保。

対策 地区内のリタイアする農業者との協力体制の構築。

3. 2から見た中心経営体の確保状況

<input type="radio"/> 担い手は十分確保されている
<input type="checkbox"/> 担い手はあるが充分ではない
<input type="checkbox"/> 担い手がいない

4. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	備考
担い手に集積・集約化する	実施している	基盤整備地区集積済。基盤整備地区外集積計画有り。
担い手の分散錯圖を解消する	計画有り	〃
新規参入を促進し、新規参入者に集積・集約化する	検討中	希望者がいれば検討する。
耕作放棄地の発生防止	実施している	不作付地の発生防止対策として転作作物の作付け等行っている。
その他[耕作条件の改善]	計画有り	基盤整備事業計画有り。

5. 4についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	備考
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に農地を貸し付ける	実施している	基盤整備地区集積済。基盤整備地区外計画有り。
経営転換(リタイアも含む)する場合は原則として農地中間管理機構へ貸し付ける	実施している	基盤整備地区済。基盤整備地区外計画有り。
経営耕地の集約化のための利用権交換は原則として農地中間管理事業を活用する	計画有り	基盤整備事業に係る面的集積計画有り。
その他[地域でのまとまった農地集積]	計画有り	基盤整備事業計画有り。

6. 今後の地域農業の在り方

<p>課題 耕作条件の改善が必要。 担い手は十分確保されているが、高齢化による耕作者不足が問題化する可能性が大きい。</p> <p>対策 農地中間管理機構を活用し、基盤整備地区の担い手集積率は100%となった。今後5法人へ権利移転予定。 地域集積協力金を活用して基盤整備区域外の農道、用排水路を整備する。 設立予定の法人、他地区からの参入者及び新規就農者への農地集積を進め、不作付地発生防止を図る。</p>
